

きぼうの虹フォトコンテスト特選作品
「大野池のゆりかご」 雲中慧さん (水産学部)



発行所
北海道大学生協同組合
札幌市北区北8条西7丁目
教職員委員会編集
電話 011-746-6218

主な記事紹介

- 二面 三画 湯けむりから見える現代人の健康第2回 温泉と人々との関わり
- 四画 五画 第2回フォトコンテスト「過去と未来をつなぐ」審査結果発表!!
- 六画 心の健康を考へる② サイコロの裏の裏「健康を考へる」
- 七画 図書館へ行こう 第13回

北海道大学院 大塚 吉則
教育学研究教授
北海道大学院 渡邊 誠
教育学研究員
大学文書館員 井上 高聡

9月4・5日の二日間に、全国の大学・高等専門学校・大学共同利用機関(以後大学等と記す)の技術職員千名程が平成26年度北海道大学総合技術研究会に集う予定です。

総合技術研究会とは、大学等の技術職員が、日常業務で携わっている広範囲な技術的教育研究支援活動について発表する研究会です。通常の学会とは異なり日常業務から生まれた創意工夫や失敗事例なども重視し、参加者の技術交流と技術向上を図ることを目的として開催するものです。

全国規模の技術研究会は、昭和51年2月に開催された分子科学研究所技術研究会を源として、名古屋大学プラズマ研究所(現核融合科学研究所)、高エネルギー物理研究所(現高エネルギー加速器研究機構)の三研究所の持ち回りで開催されてきました。

平成13年3月に東北大学で大学として最初の総合技術研究会が7分野・163件の発表で開催されました。今回の北海道大学総合技術研究会は初開催から14年目にして、初めて北海道での開催となり、機械・材料系、製作技術分野、特殊・大型実験、自然観測技術分野、電気・電子、通信系技術分野、極低温技術分

野、情報系技術分野、生物・農林水産系技術分野、生命科学技術分野、機器・分析技術分野、実験・実習技術分野、建築・土木・資源系技術分野、施設管理・安全衛生管理技術分野、地域貢献・技術者養成活動分野の12分野で、ポスター発表227件、口頭発表178件となっております。

自然科学研究機構分子科学研究所の技術研究会報告集データベース (<http://techsv.tims.ac.jp/GEN/>) によると、これまでで開催された技術研究会は48回を数え、4481件の演題が発表されています。これらの全文は分子科学研究所の技術職員の尽力によって集録・データ



ベース化され、Webを通じて容易に参照できるようになっています。

北海道大学総合技術研究会の特徴としては、北海道大学のみならず北海道内の各大学技術組織間で連携し、オール北海道体制で準備を進めています。このように北海道内の各大学技術組織が一体となって技術研究会を開催することは初めての試みであり、技術研究会を複数大学で共同して開催する、あるいはブロック単位で開催する等、今後の技術研究会の開催形態の一例になればとの願いを込め、百名を超える実行委員で千名の参加者を目標に取り組んできました。また、毎年単独で開催されていた機器・分析技術研究会が、機器・分析技術分野の分科会となり文字通り、総合技術研究会となります。

近年の科学技術の進展とともに、技術系職員には高い専門性だけでなく、広範囲な知識が求められています。今回の北海道大学総合技術研究会では、今までの総合技術研究会での専門分科会を継承する形で12の多様な専門分科会を設けており、専門分科会での交流による技術の向上・研鑽とともに、専門横断的な交流も是非図っていただければと思っております。

新シリーズ 湯けむりから見える現代人の健康

第2回

温泉と人々との関わり



北海道大学大学院教育学研究院教授 大塚 吉 則

入浴は実は危ない!?

日本人は温泉大好きな国民です。ドライブで郊外に向かうといたるところに温泉の看板が立っており、駐車場は車でいっぱいです。温泉にはこれだけ多くの人たちを引きつける魅力があるというわけですが、前回お話ししたように、正しい入り方を誤るとかえって身体に悪い影響を与えてしまいます。東京消防庁の平成8年の「救急活動の実態」によると、65歳以上の高齢者107人の死亡原因中、入浴中（温泉とは限りませんが）の事故死が51人もありました。最新の統計では、入浴に関連した病死・事故死は全国で年間推計一万4千人となっております。交通事故による死亡者数が5千人を切っている状況ですので、その入浴関連死の多さには驚かされません。また、65歳以上では突然死の約四分の一が「入浴中」の死亡となっております。さらには、温泉入浴中の事故は温泉地以外からの観光客に多く、温泉地の住民には少ないという報告もあります。したがって、これらの死亡例の中には正しい入浴法を実行していれば防ぎ得た入浴関連死が相当数あると思います。

とここまで書いてきて、まるで温泉・入浴は体に悪い、と唱えているかのように聞こえますが、そんなことは全くありません。健康な方は健康増進に、そうでない方も正しい入浴法を守れば、身体の調子を整えてくれるのが、温泉・

入浴です。レジャー目的に書かれた温泉を紹介する雑誌、単行本などは数多く見つかりますが、残念ながら正しい入浴法に関する解説は、単発的に新聞・雑誌・テレビなどに紹介されている程度です。そこでこの連載では、温泉・入浴の文化人類学から地球物理学、医学まで幅広く温泉・入浴のことを紹介していきたいと思えます。

温泉と人々との関わり

平成24年度温泉利用状況 (<http://www.env.go.jp/nature/onsen/data/index.html>) では、日本には27,218本の源泉が存在し、その半数近くが42℃以上の高温源泉です。また、宿泊施設のある温泉地は3,085箇所あります。1年間の延べ宿泊客数は1億2千5百万人弱で、日本人なら赤ん坊から高齢者まで、一年に一度は宿泊している計算になります（表1）。表を見てみると、自噴湧出量・源泉総数は大分県が全国1位になっていますが、温泉地数では10傑に入っています。我が北海道はというと、源泉総数4位、自噴湧出量2位、温泉地数1位、延べ宿泊者数は1位であり、まさに北海道は温泉天国です。

仕事で疲れたときなどに、「あー、温泉にでも入ってのんびりしたいな」と思わず口に出したり、家族が集まると「たまにはみんなで温泉に行きましょう」などと誘ってみたりもしますが、そ

表1 平成24年度 温泉利用状況

源泉総数	自噴湧出量 (L/min)	温泉地数	年度延宿泊利用人員
大分県 4,473	大分県 119,868	北海道 254	北海道 11,037,151
鹿児島県 2,773	北海道 82,630	長野県 217	静岡県 10,672,000
静岡県 2,277	鹿児島県 67,760	新潟県 154	長野県 7,292,526
北海道 2,225	長野県 45,322	青森県 143	三重県 5,751,186
熊本県 1,375	秋田県 29,853	福島県 135	神奈川県 5,604,351
青森県 1,093	群馬県 26,471	秋田県 127	群馬県 5,541,139
長野県 996	福島県 26,187	静岡県 114	大分県 4,989,728
宮城県 743	熊本県 25,184	群馬県 105	新潟県 4,775,211
福島県 743	栃木県 22,710	鹿児島県 100	栃木県 4,465,680
全国 27,218	全国 677,432	全国 3,085	全国 124,695,579

こには温泉に対する一種の信仰に似た感情が含まれているようです。このことは古くから人々の生活の中で、水は体の汚れを落とし清潔にするばかりでなく、魂の穢れも清める働きがあり、神聖なものとしてとらえられていたことと無関係ではないのかもしれない。地中から熱いお湯となつて湧き出てくる温泉に、不思議な魔力の存在を感じたのでしょうか。

このような温泉信仰は日本のみならず、ギリシャ神話の英雄であるヘラクレスは泉の守り神でもあり、ローマのカラカラ浴場の他、多くの場所にその像が残っています。また、知恵と戦いの神であるアテナは温泉の神としても拝められています。イギリスの温泉町バース

いじわるじいさん

七月一日安倍内閣は集団的自衛権容認の為、憲法解釈を変える閣議決定をした。全国の連日の抗議の声を無視して。抗議集会の一つ「戦争をさせない北海道委員会シンポジウム」にも大勢集まった。学ぶことの多い会だった。

▼先の大戦で父は中国で戦い叔父はビルマで戦死、義母は満州から引挙げて来た。親に聞いた話だけでなく、写真で見た中国人の死体や爆撃された町の惨状も頭にある。広島では被爆者の話を聞いた。この戦争の結果の平和憲法だ。▼九条の解釈変更は憲法違反を承知の確信的決定だ。海外で武力行使ありに変質した九条を孫に渡すことになるのかと落ち込んでいた時、2020年東京五輪の会場見直しの話を聞いた。野鳥の会などが環境破壊を理由に変更を求めていたカヌー・スラローム会場が、葛西臨海公園から隣接地へ移りそうだという。課題の多い五輪だが精神的な運動が導いた結果だ。五輪会場と并列に論じられないにしても、集団的自衛権行使も、と思う。▼国会では法案審議もあるが、首相はこれからも市民の抗議の声を無視するの。この状況をどうしたら変えられるだろう。まずそこから考え始めなくては。(今日子)



図1 モザイク模様の浴槽



図2 絵画「若き泉」

(お風呂のbathと同じつづりです)には、ローマ風呂の遺跡があり、アテナ像が載っている台座には「Water is best (水が一番良い)」と彫刻されているそうです。
 チュニジアにタラソテラピートの学会に出かけたことがあります。地中海に面した港町カルタゴのテルメの遺跡 (THERMES D'ANTONIN) を見学したのですが、その後で入った博物館にモザイク模様が綺麗な浴槽の一部が展示されていました(図1 モザイク模様の浴槽)。
 1546年にルーカス・クラナッハという画家が「Der Jungbrunnen 青春の泉、若返りの泉、若き泉」という絵を描いてい

ます。高齢・病弱のご夫人たちが馬車や担架で泉に運ばれてきます。泉で水浴するとだんだんと若返り、綺麗なお嬢さんに変身して美味しいものを食べ、恋をしている様が描かれています。ベルリン国立博物館でこの絵を間近に見て、温泉に対して抱いていた当時の人々の想いが伝わってきました(図2 絵画「若き泉」)。

日本の温泉療法の開祖は神代にさかのぼります。古事記や日本書紀に記載されている神功皇后は、韓国遠征の傷病兵を嬉野(うれしの)温泉で療養させたそうです。この時皇后は、白鳥が川の中で羽を浸して元気に飛び立つ様子を görünになり、戦いで傷ついた兵士

を入れてみたところ、実は温泉が湧いていて兵士の傷が癒えたそうです。それを喜ばれ「あな、うれしいの」と言われたことが嬉野の地名の起源だそうです。その後、奈良時代からは「神湯」として温泉が病気の治療に使われ始めており、経験的に温泉の効能が知られていました。温泉入浴が庶民の間で広く行われ始めたのは、江戸時代になってからです。「湯治」の習慣は江戸時代に確立し、特に農村では田植えや稲刈り前後に、体力を養いあるいは疲れた体を休めるために、温泉入浴の習慣ができました。農作業による心身の疲労を癒すばかりでなく、次の仕事への体力づくりも兼ねた、現在では「温泉保養地療法」と呼ばれているものをその頃から実践していたのです。ヨーロッパでも、ローマ時代から温泉の湧き出るところに保養施設を設けて社交施設とし、戦争が始まると、傷病兵の治療の場としての施設が存在していました。これらは現在遺跡として数多く発見されていますが、阿部寛さんが主役を演じた映画テルマエ・ロマエをご覧になった方は、想像できると思います。私もこの映

画を観たのですが、ローマ人も日本人同様温泉好きな国民なのだ、と感心しました。
 このように洋の東西を問わず、古くから温泉は人々に広く利用されていたのです。しかしその利用形態は日本とヨーロッパとは異なり、私たち日本人は温泉という、熱いお湯に手足を伸ばしてゆったりと首まで浸かることを想像し、ヨーロッパの人達はお風呂に入ることだけではなく、水中での運動、蒸気浴、泥浴、飲泉、吸入などをとり入れた、多彩な利用法を想像します。実際、ヨーロッパでは温泉をその存在する自然環境とともに捉えており、楽しみながら温泉や自然環境の持つ保健作用を利用しようとする施設やシステムがきちんと整備されています。
 さて、現在では詳細な地質図があり、また温泉発掘の専門家がいるため、かなり正確に温泉の所在地を特定できるようになりました。しかしながら、そのような専門家がいなかった時代にはどのような温泉が見つかったのでしょうか。多くの場合、動物に教えられて、傷を癒すために入り始めたのがきっかけのようです。不思議なことには、鹿が登場することが多いようです。日本では長野県の鹿教湯(かけゆ)温泉が有名で、菩薩が鹿に化身して温泉の場所を教えたという伝説があります。チェコではカルロビ・バリ(Karlovy Vary)が知られております。ここは神聖ローマ皇帝のチャールズ4世が鹿を追って猟をしている時に温泉を発見したのですが、追っていた猟犬が熱湯でやけどしている間に、狩り立てられた鹿は無事に逃げおせたという伝説が残っています。現在では町を見下ろす丘の上にある岩山に1頭の鹿の像が建っています。洋の東西で鹿の役目が異なるのは面白いですね(図3 カルロビ・バリ 鹿の像)。



図3 カルロビ・バリ 鹿の像

未来をつなぐ」審査結果発表!!

6月10日から30日までの間募集していたフォトコンテストには、第1回（平成25年）の22点を大きく上回る53点の応募作品が寄せられました。「力作ぞろいで選考が大変だ!」と選考委員間でうれしい悲鳴が上がりました。

その中から特選1点、入選5点を5名の審査員により厳選いたしました。入選作品はそれぞれの審査員賞とさせていただきます。応募していただいた皆さん、ありがとうございました。

特選

「大野池のゆりかご」

雲中 慧さん (水産学部)

大野池で子育て中のオシドリです。多くの方がオシドリの未来たる子ども達を暖かく見守っています。

●審査員コメント

CMなどで人を引きつけるには「小動物」や「子供」を使え、という話を聞きます。その点ではこの作品、「ずるいぞ!」です。お母さん鳥の目に表情が感じられること、配色のバランスがとても心地よいことがこの作品を選んだ理由です。動物たちが未来にいのちをつなげていく環境を守っていくことは、今を生きている私たちの役目ですね。



学生委員会賞

「待ち望んだ空」

飯利 拓実さん (工学部)

例年になく長く雨が降った札幌。久々の日差しを待ち望んでいたかのようにトウモロコシが空を仰ぐ。

●審査員コメント

天を仰ぎ、さらに上を目指して成長しようとするとうもろこし。その姿はさらなる高みを目指し日々励んでいる学生の姿と重なる。まさに学生の未来を象徴するかのよう一枚となっています。



教職員写真同好会賞

「受け継がれる意思」

神 実紗子さん (総合化学院)

バトンは人と人をつなぐもの。つながりは時も場所も超えて広がる。

●審査員コメント

バトン、手、青空、雲、人々、それぞれが絶妙に配置された構図がお見事です。作者がこの作品にかける思いや熱意が伝わります。ぼかしのテクニクも上手ですが、指先からバトンまでをもう少しシャープに表現できれば、さらに印象的な作品になると思います。

第2回フォトコンテスト「過去と

審査員：生協学生委員会、院生委員会、教職員委員会、北大教職員写真同好会、生協理事会室から各1名
*教職員写真同好会の皆さんには、きぼうの虹の表紙写真をはじめ、長い間お世話になっております。この場を借りてお礼申し上げます

特選および各賞入選者の皆さんには、生協電子マネーチャージを贈呈いたします。



院生委員会賞

「旅立ちの日に」

野村 好延さん（総合化学院）

守られていた学生生活から、はるかな空の果てまで、飛びたつ想いで。

●審査員コメント

人と人とのやりとりに、同じものは決してありません。この青年が過去と未来をまたぐ瞬間は、この一瞬しかない。もう二度とないときを、見事に割り貫き表現した投稿者を讃えます。白黒の背景にもセンスを感じます。



教職員委員会賞

「黄昏の平成ポプラ」

斎藤 優太さん（農学部）

夕焼けと夜が共存するこの時間帯は、今日と明日をつなぐ時。

●審査員コメント

北大といえば、やはりポプラ並木です。札幌の中心に近いにもかかわらず、開拓時代を思わせる幻想的な景色をながめることができる感動を大切にしたいですね。



理事会室賞

「歴史の扉より」

大村 洋平さん（情報科学研究科）

博物館入口からメインストリートへ向けて撮影しました。過去から未来を見つめることができる場所です。

●審査員コメント

時の流れを切り取ったような風景と、その中での車と人の動きのある情景が「過去と未来をつなぐ」キャンパスをイメージさせています。総合博物館の入口アーチと現在のなにげない瞬間が、80年以上の時をつなぐ一コマとして伝わってくる作品です。

心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

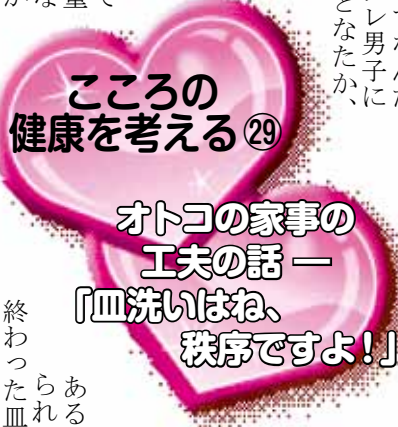
渡邊 誠



家事育児というのは、その一つ一つは小さな作業なのですが、それらがたくさんたかさん積み重なって、全体としては、まるでハチの群がうわーんという圧迫感のある羽音を立てているようなものだな、と私は感じます。どうもこの圧迫感とか負担感とは独特のもので、外での仕事の負担に勝つことはあっても、決して劣ることではないのではないのでしょうか。日本では、共稼ぎをする夫婦の場合、家事育児の負担の多くを女性が担っていることを示す調査結果を、目にすることがあります。なぜに外でフルタイムで働いた上に、家事育児のほとんどをこなせてしまえるのだろう、しかも、それで少なくとも見たところ、ズタボロになっていないようでもなさそうなのが多いというのには、一体どうしてなんだろう、……これは私のようなヘタレ男子には、実に大きな謎に思えます。どなたか、その秘訣を伝授していただけないでしょうか。

しかし家事にかんしては、みなさん、その中でいろいろ工夫をされているのではなにかと想像します。小さな作業が積み重なって全体として大変になるということは、考えてみれば、逆に小さな工夫を積み重ねることで、効率良く負担の少ないものにもできる、ということかもしれません。そう考えただけでも、少しは気が楽になるような。

家事の王様、一番エライ家事、そんなものがもしあるとすると、それは料理なのではないかと、そんな気がしますが。料理は創造的で、ほとんど無限に近い工夫ができそうです。それに、食べるということも、そもそも人と人がつながることに、根本的なかわりがあると思えます。また、私の場合、生まれて初めて自炊生活を始めたばかりの北大一年生の頃、クラスの中で食生活ワーストスリーの一人と目され、納豆を主なオカズとし、父に「おとうさん、納豆の糸は命の糸だよ」と言われて、「お前は親を脅迫するつもりか!」と叱られた位



です。料理は、ちよつと無理なんですけどね、じやあ、料理にはつきものの皿洗いはどうでしょう。これなら、私でもできます。でも家庭を持って、独身の頃からずつと沢山の皿を日々洗うようになった頃、よく思っていました。皿洗いつてホント詰まんないよなあ、ぜんぜん工夫の余地ないよなあ……。でも、だんだん気づいてきたのです。独断と偏見で言いますが、皿洗いは、まず汚れた皿の積み重ね方、並べ方が大切なんです。雑然と流しに積み上げておくと、もう見るだけで実に気が重たい。でも、皿やお椀を、大きいものを下に、小さいものを上にと、なるべくコンパクトになるように積み上げ、箸やフォーク、スプーン類も一つにまとめて、全体として幾つかのブロック(?)にすると、それだけでけっこう気が楽になりますよ。こうすると、この山を洗って、次にこれを洗って、とある程度見通しが立てられます。それに洗った皿を、水を切るために終わった皿を、水を切るため

「皿洗いはね、秩序ですよ!」

終わった皿を、水を切るために、水につけやすいんです。つまり、「皿洗いはね、秩序ですよ!」と私は言いたいです。しかし、これは何人かの女性に話して、大笑いされました。うーん、違うのでしょうか。

でも、見通しが立てられることが、私たちの気持ちに楽にする、これはいろいろなことについて言えるんじゃないでしょうか。子育てだって、いつか終わりが来ますよ。これも一つの見通しでしょう。ただ、家事労働の定年って、いつ来るんでしょうね……これからは洗わなくてはならない皿の数って……考えない方が、心の健康に良いってことも、ありますよね。

終わった皿を、水を切るために、水につけやすいんです。つまり、「皿洗いはね、秩序ですよ!」と私は言いたいです。しかし、これは何人かの女性に話して、大笑いされました。うーん、違うのでしょうか。

でも、見通しが立てられることが、私たちの気持ちに楽にする、これはいろいろなことについて言えるんじゃないでしょうか。子育てだって、いつか終わりが来ますよ。これも一つの見通しでしょう。ただ、家事労働の定年って、いつ来るんでしょうね……これからは洗わなくてはならない皿の数って……考えない方が、心の健康に良いってことも、ありますよね。

理学部棟と文系共同講義棟にミニショップがオープン

衛生面を考慮した食料品の販売へ

6月18日(水) 理学部2号館2階に理学部のミニショップ、6月23日(月)に文系共同講義棟2階に文系のミニショップがそれぞれオープンしました。

食品の安全衛生面から常温での立ち売り弁当の販売を中止しましたが、理学部棟と文系棟には、これまでお昼時に弁当をご利用いただいていた皆様のご要望に応じて、ミニショップを開設しました。冷蔵仕器を設置して、弁当だけではなく飲料や菓子なども販売しています。営業時間は、10:00～13:00となっています。オープンして理学部棟では平均150名、文系棟では200名近くの方が利用されています。学生証・職員証の電子マネーもご利用できますので、限られたスペースですがぜひご来店ください。



図書館へ 第13回 行こう

先人未踏の分野で独自の境地

— 知里真志保文庫 —

大学文書館員 井上 高聡



書き込みのある金田一京助『ユーカラの研究』
(附属図書館知里真志保文庫蔵)

“chiep” “chep” “chip”
流れの曲がり角を「川の肘」、
幾重に及ぶ曲折を「川の小腸」、
夕風を「風が夕方に食事をする」
と表現するアイヌ語から、アイヌ
が森羅万象を自分たち同様の生
き物と捉えていたことを指摘し、
二つの似通った単語 “chiep” と
“chep” が、神としての魚と生活の
糧として魚を意味して使い分けら
れることから、アイヌの宗教観や
生活文化へと切り込む。そして、
こう楔を打つことも忘れない。

和人はこれを「チップ」などと
訛る。学者の中にさえ、そう書
く人がある。……chipと言え
ばアイヌ語では舟のことである。
いかにアイヌでも舟だけは食わ
なかつた！舟を喰つたり砂利を

喰つたりしたのは、資本主義は
なやかなりし頃の日本人であ
る。

気骨の人、知里真志保

登別にアイヌとして生まれた知
里真志保（一九〇九〜一九六一
年）は、『アイヌ神謡集』で著名
な姉幸恵と同様に文才に恵まれ
た。言語学者金田一京助に師事し
て東京帝国大学で言語学を学び、
樺太の女学校教諭や博物館技術員
を務める傍ら、アイヌ語の研究・
調査を続けた。一九四三年に北海
道帝国大学北方文化研究室嘱託、
一九四七年に新設の法文学部の講
師となり、一九五四年には「アイ
ヌ語法研究」で文学博士を取得、
一九五八年に文学部教授となつ

た。

文学部では「アイヌ語アイヌ文
学」、「アイヌ文化史」などの講義
を行なうと共に、アイヌ語・アイ
ヌ文化に関する多くの研究・調査
を厳しい姿勢で進めた。例えば、
アイヌ語研究の先駆者でもある宣
教師J・バチエラー（一八五四〜
一九四四年）のアイヌ語訳聖書を
「アイヌが読んでも意味が分から
ない」、辞書を「アイヌ語研究の
役に立たない」と容赦なく批判し
た。知里はまた、『分類アイヌ語
辞典』全十一巻の編纂を構想した
ほか、アイヌ語音声資料の収録の
監修にも携わった。

独自の研究、学ぶ意義

「アイヌ語学者と言うよりも民
族学者」を自認する知里
の仕事ぶりについて、同
僚でもあった北海道史研
究者高倉新一郎は、「驚く
べき精力を集中してアイ
ヌ研究に取り組み、先人
未踏の分野を開拓し、独
自の境地を開いた。殊に
アイヌ語、アイヌ文学の
研究を通じて掘り進んだ
アイヌの研究には、語学
のみの、若しくは観察一
方の研究家の及びもつか
ぬ境地があった」と述べ

ている。

知里自身はアイヌ語研究につい
て、以下のように語っている。
「和人とアイヌは」物の考え方
に大きな食い違いがあつて、
それがアイヌ語やアイヌ文学の
理解をよほど困難にしているの
であるが、皮肉なことには、わ
れわれがこの言語を学ぶ意義と
興味の一つは、また実にそこ
にあるのである。

知里真志保文庫

知里が亡くなった後、文学部が
その蔵書を購入した。現在、附属
図書館が所蔵する「知里真志保文
庫」約一二〇〇冊である。この中
には、日本で最初のアイヌ語彙集
とされる一八〇四年刊行の『蝦



北大文学部時代の知里真志保（大学文書館蔵）



知里自身が筆写し書き込みをした『蝦夷方言藻汐草』
(附属図書館知里真志保文庫蔵)

夷方言藻汐草』を知里自身が筆写
して綴じた写本があり、赤鉛筆な
どで細かい書き込みがなされてい
る。また、恩師である金田一京助
の代表的著作『ユーカラの研究』
にも、学説の誤りを指摘する書き
込みがある。この文庫とは別に、
附属図書館北方資料室は、戦後、
知里が監修した「アイヌ語関係音
声資料」も所蔵している。
これらの蔵書・資料は、研究者
としての気概とアイヌとして矜持
が交錯する、気骨の人知里真志保
の軌轍である。

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

北大生協組織委員会報告

学生委員会

■総代会議

7月8日(火)に北部食堂で総代会議が行われました。総代会議は生協を利用して総代・学生から生協への意見を聞くために、生協職員と学生が話をする場です。

今回の総代会議では23人もの学生が参加され、北部食堂・書籍・購買の職員さんを変えて各店舗を利用して、便利などころや不便なところはないか等のご意見ご要望をいただきました。

総代会議は定期的に開かれていくので、興味のある方はぜひ参加してください。



■オープンキャンパス

8月3日(日)、4日(月)に北海道大学のオープンキャンパスが行われ、多くの受験生が北海道大学を訪れます。

学生委員会では、そのオープンキャンパスに合わせて受験生に向けて活動を行います。

受験生と北大生が話す「北大生と話そう」など、受験生に北海道大学の魅力を知ってもらうための様々な企画の準備をしています。

院生委員会

■第一回院生ジンパを

開催しました！
院生による院生の為のジンギスカンパーティーを、今年も開催しました！

6月14日(土)に開催しました。この日は天候不良、PR不足により、参加人数は少数精鋭となつてしまいました。このため今年は二回目を8月2日(土)15時から行うことが決定いたしました！第二回院生ジンパの詳細はメールやLINEで告知するとともに、大々的にポスターでもお知らせいたしますので、奮ってご参加ください！



■院生委員会連絡先

<http://www.hokudai.seikyounet.jp/~insei/>
hokudai_insei@coop.hokudai.ac.jp

院生委員会からのイベント等の案内を受け取れるML登録を希望される方もこちらのメールアドレスにご連絡下さい。

留学生委員会

■7月19日(土)

日帰りバスツアー開催！

今年で4回目になるバスツアーは昨年に引き続きさくらんぼ狩りを組み入れ、12カ国・総勢32名で果物の町、仁木町を目指しました。

お天気にも恵まれ、山ひとつがさくらんぼの木で埋め尽くされていく広大な果樹園で美味しいさくらんぼを堪能しました。園内には24種類4千本の木があり、留学生からは「自国でさくらんぼ狩りをした事はありませんが、こんなに大きな果樹園は初めてで楽しいです」という声や「一年分のさくらんぼをおなかいっぱい食べました」など、笑顔で話してくれました。帰りは小樽運河付近で自由時間を設定して各々小樽観光を楽しみました。来年も沢山の留学生に参加していただきたいと考えています。



教職員委員会

■教職員総代会議

学内7ヶ所で8月を除く毎月1回、昼休みを利用して開催しています。生協の営業報告のあと、教職員の皆様に利用者の立場から組合員の声等を行っていただきます。

7月は15、17日に開催しました。
■教職員委員会…毎月1回、18時～19時半に開催しています。総代会議で上がった組合員の声についての検討や、きぼうの虹の編集・発行について討議しています。
7月は17日に開催しました。

■きぼうの虹…この冊子です。教職員委員会が編集し偶数月に発行しています。連載記事を常時募集しています。この場で学生や教職員に何か発信してみませんか？
お気軽にお問い合わせください。

【編集後記】

「万物は流転する」とはいうが、一方で変わらないものもきっとある。過去から未来へどこまでも流れゆくこの世界で、一瞬の煌めきをこの世に残したい。その一心で思わずシャッターを切る。その瞬間時は凍りつき、フィルムの中で過去は永遠の存在となる。フォトアルバムを開くことはどこかタイムカプセルを開けることに似ている。写真達は未来の私たちへの遺産なのかもしれない。

■各種連絡先…北大生協理事会室
(学内内線…3285)
seikyounet@coop.hokudai.ac.jp